トマトのタバココナジラミに対する各種防除法の検証と防除モデルの構築

【研究概要】

トマトの生産現場で問題となっているタバココナジラミについて、既存の薬剤が効きにくいバイオタイプQの発生実態およびその薬剤感受性を明らかにするとともに、近年、開発が著しい各種防除法を検証し、それらを組み合わせた防除モデルを構築することを目的に試験を実施した。

（１）９月定植の施設トマト栽培において、タバココナジラミの天敵であるタバコカスミカメ製剤と土着タバコカスミカメによる防除効果を検討した。その結果、定植前から放飼したほうが効果は高く、放飼頭数が制限されない土着タバコカスミカメを２株当たり３頭放飼することで、より防除効果が向上した。

（２）生産者圃場において、１１～１２月定植の施設トマト栽培でのタバコカスミカメによるタバココナジラミに対する防除効果の検証を行った。その結果、定植前の苗から天敵を放飼し、天敵温存植物としてクレオメを利用することで、特に収穫期後半のコナジラミ類の増殖を抑えられることが判明した。